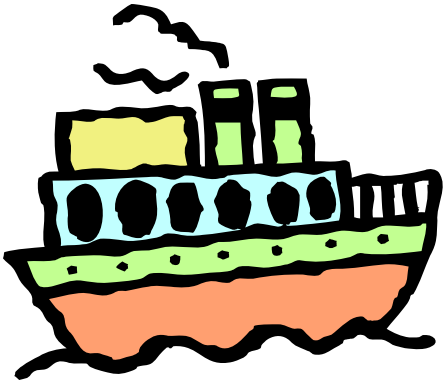
2008年度前期開講「海の地質学」
－期末定期試験問題－

問：地球温暖化による海面上昇が声高に論じられる昨今である．茶化してしまうにはあまりにも深刻な問題であるが，これをわれわれの生活がすっかり水中に移ってしまったらどうなるか，を考えるきっかけとしてみたい．つまり，水中で暮らすとどのような利点があって，どのような難点があるのか，ということをこの期末試験の時間を利用して考察してもらいたい．担当教員が水嫌いであることは講義中にしつこいくらいに述べたが，ここは百歩譲って「好き嫌いにかかわらずみんな水中！」ということにする．

では改めて問題を述べる．ヒトがもし水中で暮らすことが可能になったとしたら，つまり，海水中で呼吸することができるようになったとしたら，そして現在の生活空間がそのまますっぽりと水中に移行したとしたら，きみたちの生活はどのようなものになるだろうか？平日でも休日でもかまわない（病気で寝込んでいたり終日ごろごろしている日はだめ）．あるふつうの日ををふりかえり，それがもし水中だったらどんな生活になるか，朝起きてから夜寝るまでの間について，大気中と比べての利点や難点に着目しながら記述し，そのうえでどっちの生活がより好ましいか個人的な見解として結論づけなさい．

イラストなどを描いて説明してもかまわない．水圧の影響については無視するものとする．電気器具や燃焼器具，エンジンなどの内燃機関も水中でそのまま動作するものとする．また，全人類がすべて水中に移行するのか，それともある割合はそのまま大気中での生活を続けているのか，についてはそれぞれの判断にまかせる．

※　この問題は前々回の「英国諸島の地史」でもらったコメントのひとつからヒントを得ました．